

「朗読決勝課題」

（この話は、昭和30年頃が舞台である。

無形文化財の榮譽を受けた視覚障害のある三味線の名人菊沢きくざわとしひさ久ひさに、障子越しに女性の弟子である、新聞にいせきが、来客を伝えた。）

「誰や」

「菊岡きくおか幸善こうぜんさんとその若いお弟子さんです。親御さんが御一緒ですわ。

先達せんだつてお約束の方ですわ」

言葉尻を上げて、新聞は断らせまいとしているのだ。

「唄を聴け云うんやろが。通し」